

移民受け入れ及び定住化による地方活性化に関する研究
高知工科大学 経済・マネジメント学群 1230421 江角優介
指導教員 中村直人

研究背景

現在、日本の人口は減少を続けており、地元である徳島県においても平成11年以降減少を続けている。人口減少が経済や地方自治体の存続に悪影響を及ぼすと考えられ、早急の対処が求められている。人口置換水準とされている出生率2.08を達成することや地方移住政策による人口増加を達成することはかなり厳しいと考えられる。

そこで、近年増加傾向にある外国人労働者に着目し、移民受け入れによって人口増加を達成することが可能なのではないかと考えた。本研究では、移民受け入れによって人口増加や経済活性化を達成した海外の事例を参考に、移民を受け入れその土地で住んでもらうことのできる取り組みを行政、教育、地域の視点から検討する。

研究目的

本研究では、移民受け入れによって地方活性化を目指すうえでの施策について、行政、教育、地域の観点から明らかにする。

研究方法

文研研究と事例研究により移民受け入れの施策について研究し、日本や徳島県に適した手法を考察する。

分析結果

移民受け入れ・定住化については、その土地で暮らしていけるようになる環境を整えることが重要であり、移民に対する言語教育やその子供に対する教育の保障、社会参加できるような制度が整っているとその国で外国人が暮らすようになるといえる。

海外の事例を参考に取り組みを考えることが重要であるが、日本に合った取り組みや受け入れ施策に変えていきながら実施していく必要がある。

考察・結論

日本全体の課題として、少子高齢化と人口減少という課題を解決していかないといけない中で、移民としての外国人労働者を受け入れ、定住に繋げていくことが重要であるといえる。移民受け入れにより、諸外国のように人口増加や経済活性化につなげていくことは日本においても可能であると考えられる。そのためには、移民に対する言語支援やその子供に対する教育の保障、生活支援および社会参加の制度を整えていくことが求められる。このような取り組みを持続的に取り組んでいき、政策の評価や外国人からの評価をデータにし、それを基に改善していく必要があると考える。徳島県においては、都市部に比べて外国人受け入れ数が少ないので、受け入れる幅を広げ、徳島県に来てくれた外国人を育成していくことが重要になる。地方においてはこうした取り組みが充実していないといえるため、今後積極的に行っていくことが求められる。